

事前評価個表

事業名	森林環境保全整備事業	事業実施計画期間	平成30年～平成34年度(5年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	(あき) 安芸森林計画区 (高知県)	事業実施主体	四国森林管理局 安芸森林管理署
事業の概要・目的	<p>本計画区は、北部は奈半利川の源流部、南部は室戸岬までの高知県東部に位置し、区域面積 11万3千haで、森林はその88%の10万haとなっている。温暖多雨で、林木の生育に適した気候下であり、スギを中心とする人工林が半数以上を占める。</p> <p>国有林野は、森林面積の30%にあたる2万9千haで、安芸市含む2市3町2村に所在し、多くの森林は暖温帯に属し、北部の標高の高い地域ではスギを混生したモミ、ツガ群落が、南部の標高の低い地域ではスダジイ、コジイが分布する。また、徳島県境周辺では冷温帯を代表するブナ林が見られる。</p> <p>安芸市の西ノ川山、馬路村の安田川山、千本山には、本計画区と紀伊半島のみに分布すると言われるトガサワラ群落が見られる。さらに魚梁瀬地区を中心にヤナセ天然スギが分布するなど、天然林は、千本山、西又山、稗巳屋山等の周辺にまとまって分布し、地域を代表する林相を呈しており、学術上も貴重な森林であることから、保護林、県立公園、レクリエーションの森等に指定されている。</p> <p>我が国の人工林の半数以上が10齢級以上の主伐期を迎え、森林資源を循環利用することが大きな課題となっている中で、本計画区の国有林野においても、国有林野の林種別面積は、人工林22,320ha(77%)、天然林5,710ha(20%)、無立木地等992ha(3%)と、人工林率が高く、その内スギが65%を占めている。</p> <p>人工林のうち、66%が10齢級以上の利用期に達しているため、主伐・間伐を積極的に推進し、木材利用の拡大や林齢構成の平準化に取り組む必要がある。</p> <p>本計画区では、国民の森林に対する期待が、国土の保全や水源の涵養の役割に加え、地球温暖化の防止や生物多様性の保全、森林環境教育の推進、森林とのふれあいや国民参加の森林作り等の面で高まっていることから、公益的機能の発揮に重点を置きつつ、本事業では</p> <p>①天然林が多く分布する魚梁瀬地区等を中心に、森林の重視すべき機能の区分に応じた適切な森林整備を進めるとともに、国土保全や水源の涵養の役割及び自然環境を維持・形成しながら、保健・休養の場の提供等に努める。</p> <p>②利用期に達した人工林がまとまっている野友(北川村)、魚梁瀬地区を中心に、効率的な林産物の供給や地域振興の寄与にも考慮しつつ、主伐後の確実な更新作業と間伐等の保育作業を推進するとともに、木材の搬出や保育事業に必要な路網整備を計画的かつ効率的に実施する。</p> <p>主な事業内容 更新面積 321ha 保育面積 5,900ha 開設延長 7.95km 改良延長 52.30km 総事業費 4,676,525千円</p>		
費用便益分析	総便益(B) 16,531,224千円		
	総費用(C) 5,686,969千円		
	分析結果(B/C) 2.91		
森林管理局事業評価技術検討会の意見	公益的機能の発揮や木材安定供給、計画的な森林整備が求められている地域であり、必要性、効率性、有効性など評価の観点から、妥当なものとなっている。		

評価結果

- ・ 必要性 人工林の高齢林分が多い地区であり、適切な森林整備をすることで、国土保全、水源涵養及び保健休養等の公益的機能の発揮や地球温暖化防止、木材の安定供給が大きく期待できることから事業の必要性が認められる。
- ・ 効率性 費用便益分析の結果から、事業の効率性が認められる。
- ・ 有効性 シカ被害が多い地区であり、適切なシカ被害防止対策を講じるなど、地域の特性を踏まえた計画的な森林整備であるとともに、国有林の地域別森林計画に即した事業内容であり、森林の有する機能を十分発揮させる有効な事業であると認めらる。

新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用便益分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に評価したところ、森林の重視すべき機能に応じた適切な森林整備が効率的に計画されていると認められる。

様式1

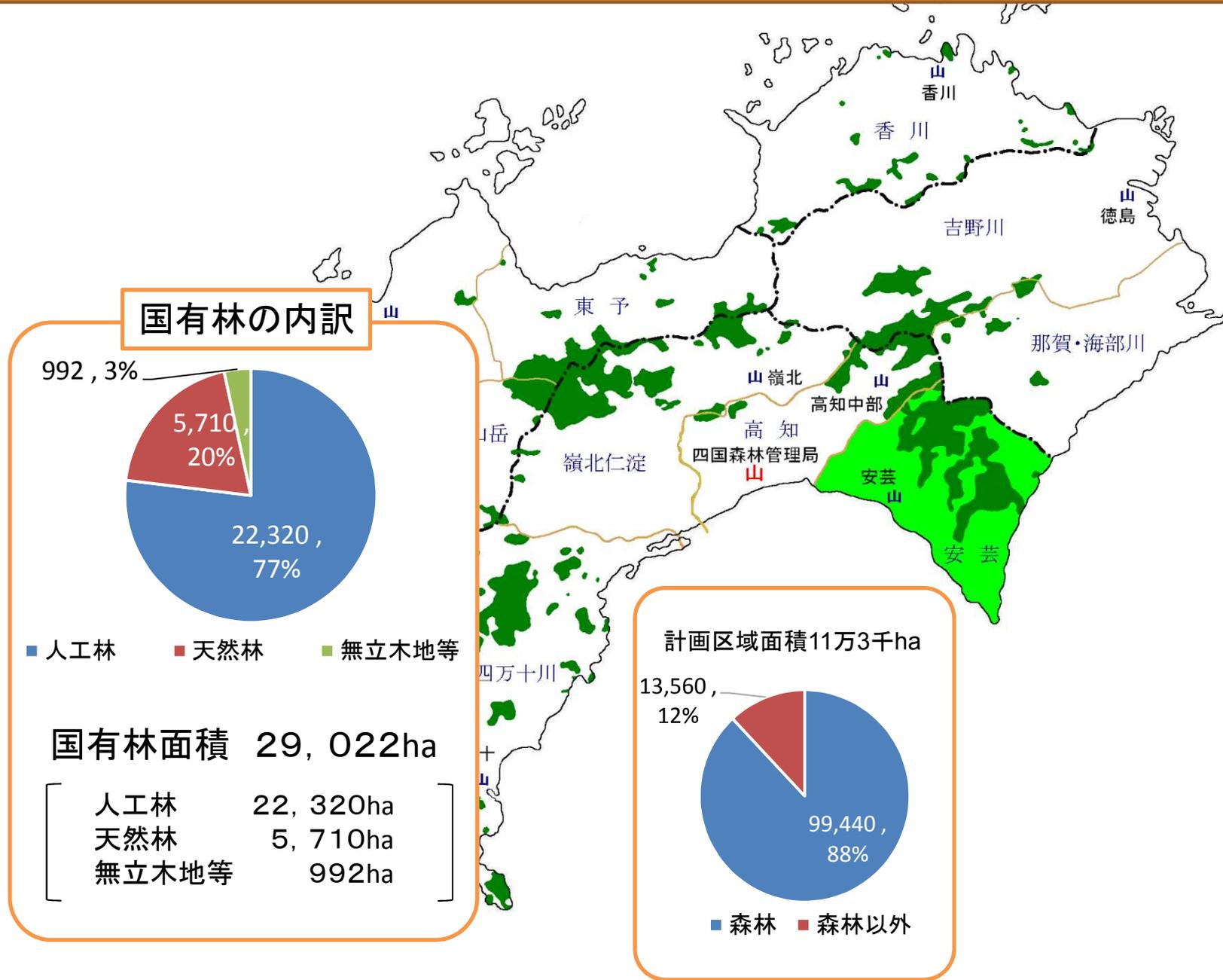
便 益 集 計 表
(森林整備事業) 合計

事業名：森林環境保全整備事業
施行箇所：安芸森林計画区

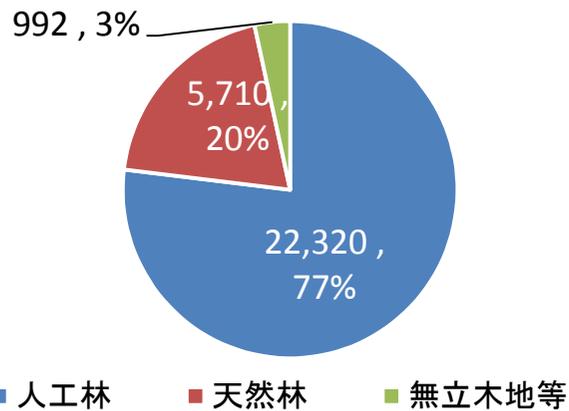
都道府県名：高知県
(単位：千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源涵養 ^{かん} 便益	洪水防止便益	4,123,472	
	流域貯水便益	1,636,171	
	水質浄化便益	3,455,805	
山地保全便益	土砂流出防止便益	3,305,801	
環境保全便益	炭素固定便益	739,776	
木材生産等便益	木材生産等経費縮減便益	1,153,827	
	木材利用増進便益	6,744	
	木材生産確保・増進便益	614,417	
森林整備経費縮減等便益	森林管理等経費縮減便益	22,579	
	森林整備促進便益	1,472,632	
総 便 益 (B)		16,531,224	
総 費 用 (C)		5,686,969	千円
費用便益比	B ÷ C = $\frac{16,531,224}{5,686,969}$		= 2.91

安芸森林計画区的位置図



国有林の内訳



国有林面積 29,022ha

人工林	22,320ha
天然林	5,710ha
無立木地等	992ha

計画区域面積11万3千ha

